

高等学校

平成24年度

# 教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究の仮説	5
IV	研究の方法	5
V	研究の内容	7
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

<b>研究主題</b>	<b>動きの中で言語活動を充実させ、「学び」を活性化させる指導と評価の工夫</b> ～「体育」において生徒が目標や取り組み方を理解・実践し、互いに高め合う授業を目指して～
-------------	--

## I 研究主題設定の理由

平成 25 年度から年次進行で全面実施される高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月告示）では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことの重要性が示されている。高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編（以下、「解説」とする。）においては、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにするため、自分や仲間の課題を解決していくことができるよう、思考力・判断力の向上を図ることが求められている。

体育における思考力・判断力の育成については、筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動などの言語活動を充実させることが必要である。

本研究の先行研究となる、平成 23 年度教育研究員高等学校保健体育部会の研究では、言語活動について質的な向上を図ることで、「学び」が活性化し「確かな学力」の定着・向上を図ることができるとし、研究を進めた。そこでは、今後の課題として、指導と評価の一体化を図り、観点別学習状況の評価の内容と方法に関わる研究を進めていくことが挙げられている。

本部会で考える高等学校の体育授業の現状として、生徒一人一人の思考力・判断力の育成に関して具体的な指導と評価の観点をもって指導されていないことがあることが挙げられる。その一方で、思考・判断の指導に重点を置きすぎて話し合い活動や学習ノートの記述に多くの時間を使い、実際の活動時間が少ない授業となっていることがある。

このことから、生徒の思考力・判断力を育成していくためには、生徒が仲間と共に自分や仲間の課題を主体的に解決していこうとするよう、計画的に指導することが重要である。

そのため、毎回の授業において、生徒がこれまで得てきた知識や技能を生かし、筋道を立てて練習や作戦について話し合うなどの言語活動の場面を意図的に設定する。そこでは、生徒が共通の目標や練習方法を理解しやすいよう工夫した学習カード等を活用し、発問、助言、励ましなどの教師の働きかけを適切に行うことが必要である。それによって、生徒が取り組むべき内容を理解し学習活動を進めていく中で、実際に体を動かしつつ言語活動を行うといった授業展開が求められている。その上で、適切なときに、適切な方法で、生徒一人一人に確実に身に付いているかどうか評価することが必要である。

そこで、本部会では、生徒が動きの中で言語活動を充実させ、「学び」を活性化させる指導と工夫について研究を進めることとした。

## 研究構想図

全体テーマ 新学習指導要領に対応した授業の在り方について

高校部会テーマ 思考力・判断力・表現力を育成するための評価の工夫

### 高等学校保健体育における思考力・判断力とは

#### 【思考力】

これまでの学習や課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間、チームの課題を設定したり見直したりすることができる力

#### 【判断力】

自己や仲間の技能・体力の程度に応じて有効な練習方法や作戦等を選択でき、学習場面で状況に応じた役割を見付けるとともに、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選択できる力

### 現状と課題

#### 【現状】

高等学校の体育授業において、生徒一人一人の思考力・判断力の育成に関して具体的な指導と評価の観点をもって授業が行われていないことがある。

一方、思考・判断の評価は主に話し合い活動での生徒の発言等の観察や学習ノート等の記述内容から行うが、話し合い活動や学習ノートの記述に多くの時間を使い、実際の活動時間が少ない授業となっていることがある。

#### 【課題】

生徒の思考力・判断力を高めるための具体的な指導と評価の計画を立て、生徒がこれまで得てきた知識や技能を生かして、主体的に課題解決に取り組んでいくよう授業展開を行い、計画に基づいて適切に評価を行っていくことが求められている。

また、実際に体を動かす機会を確保するため、指導と評価の機会、評価の方法を工夫する必要がある。

### 保健体育部会主題

動きの中で言語活動を充実させ、「学び」を活性化させる指導と評価の工夫

～「体育」において生徒が目標や取り組み方を理解・実践し、互いに高め合う授業を目指して～

### 仮 説

学習目標や評価規準、学習方法を明確にした上で、生徒が課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる場면을意図的に展開させることで、言語活動が充実し互いに高め合う授業となっていく。その上で適切な評価を行うことで、生徒の思考力・判断力を育むことができる。

### 研究の方法

- ・学校、生徒の実態を踏まえた学習目標・評価規準を設定し、学習の流れと指導と評価の機会及び評価方法を明確にした単元構造図を作成し、生徒に示す。
- ・言語活動を充実させるため、課題解決に取り組む学習場面を毎時間設定する。
- ・発問、助言、励まし、承認などの教師の働きかけを行うことで、生徒が個人・グループで、課題解決に向けて主体的に工夫して取り組めるようにする。

### 検証方法

- ・思考力・判断力の変容に関する授業アンケートを単元の前後に実施し、その結果を分析し、考察する。
- ・単元を通して使用する「学習カード」から、思考力・判断力等に関する生徒の変容を分析し、考察する。

## Ⅱ 研究の視点

### 1 思考力・判断力・表現力について

#### (1) 学力としての「思考力・判断力・表現力」

「『確かな学力』とは、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力」<sup>1</sup>とし、思考力・判断力・表現力等も学力に含まれることを明確に定義している。

同時に、「知識や技能と思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲などは本来相互にかかわりながら補強し合っていくものであり、『確かな学力』をはぐくむ上で、両者を総合的かつ全体的にバランスよく身に付けさせ、子どもたちの学力の質を高めていくという視点が重要である。」として、知識・技能及び思考力・判断力・表現力の両方の関わりを踏まえて育成することが重要であると指摘している。

#### (2) 科目「体育」における「思考力・判断力」

高等学校学習指導要領にある科目「体育」の目標は、「運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる」と示されている。

「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力」とは、解説において、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを深く味わおうとするとともに、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲、健康・安全への態度、運動を合理的・計画的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力などを指している。

また、高等学校においては、学習に対する主体的な取組を促しながら、それらを育成していくことが重要であり、「解説」では、科目「体育」の各領域に共通して、高校入学年次は、「自己の課題に応じた運動の取り組み方」を、その次の年次以降は「自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方」を示している。

卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するため、多くの運動領域の中から、自分に適した種目を選択させるとともに、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げ、課題解決のための思考力・判断力の向上を図ることが求められる。

「解説」では、「思考・判断」について、「体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断」、「体力や健康・安全に関する思考・判断」、「運動実践につながる態度に関する思考・判断」、「生涯スポーツの設計に関する思考・判断」に分類されている。

「思考・判断」について、技能（「体づくり運動」は運動）、態度、知識の指導内容と関連させて、指導していく必要がある。

---

<sup>1</sup> 中央教育審議会平成15年10月「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（答申）」

## 2 言語活動の充実

平成20年1月に中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」では、知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動として、①体験から感じ取ったことを表現する、②事実を正確に理解し伝達する、③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする、④情報を分析・評価し論述する、⑤課題について構想を立て実践し、評価・改善する、⑥互いの考えを伝え合い自らの考えや集団の考えを発展させる、を例示し、このような活動を各教科において行うことが思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠であると指摘している。例示されている学習活動はその全てが言語を介在しており、「思考力・判断力・表現力等」の育成は言語活動を充実させることによって実現するとしている。

さらに学習指導要領においては、「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。」とし、国語科のみならず各教科等で言語に関する学習活動の充実を図ることを重視する必要性が示されている。

## 3 「体育」における言語活動

学習指導要領第6節保健体育第2款第1体育の「3の(6)」では、「筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動が充実するよう配慮するものとする。」とされ、「解説」の第3章「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」第4節5「言語活動の充実」では、「単元のはじめに課題解決の方法を確認する、練習中や記録会及び競技会などの後に話し合いをするなどの機会を設ける、学習ノートを活用するなどの工夫をするとともに、指導内容の精選を図ったり、話し合いのテーマや学習の段階的な課題を明確にしたりする。」と具体的に示されている。

## 4 観点別学習状況の評価の状況

「小・中学校の学習評価では観点別学習状況の評価の着実な浸透が見られるが、高等学校の学習評価では、観点別学習状況の評価の趣旨を踏まえた学習評価を行い、授業の改善につながるよう努力している学校がある一方で、ペーパーテストを中心としていわゆる平常点を加味した、成績付けのための評価にとどまっている学校もある。」<sup>2</sup>と課題を指摘されている。

また、「高等学校においても、学校教育法や新しい学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価を行うなど、観点別学習状況の評価の実施を推進し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要がある。」と示されている。

学習評価は、「生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものである。したがって、学校が地域や生徒の実態を踏まえて設定した観点別学習状況の評価規準や評価方法等を明示するとともに、それらに基づき学校において適切な評価を行うことなどにより、高等学校教育の質の保証を図ることが求められる。」と示されている。

<sup>2</sup> 国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」第1編総説「1の(2)高等学校における学習評価についての基本的な考え方」

### Ⅲ 研究の仮説

思考力・判断力を育成するには、習得した知識・技能を学習活動の中で言語を用いて活用することが必要である。この言語を活用することを充実させるため、本部会では「学習目標や評価規準、学習方法を明確にした上で、生徒が課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる場面を意図的に展開させることで、言語活動が充実し互いに高め合う授業となっていく。その上で適切な「評価」を行うことで、思考力・判断力を育むことができる。」と仮説を立てた。

具体的には、科目「体育」の「球技」の中から、ゴール型「サッカー」とネット型「バドミントン」を取り上げ、学習目標と作成した評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を生徒に明示して説明する。計画を基に、生徒が課題に応じて運動を継続するための取り組み方を工夫できる場面を明確にし、それを充実させる学習資料を作成する。学習カード等の学習資料を活用しながら、技能の習得や作戦の立案などについて、提案や吟味、伝達といった言語場面を意図的に設定した学習指導案を作成し、授業を行う。

このことによって、生徒が単元目標と本時の学習内容の位置付けを把握することができ、課題解決に向けて意欲的に取り組むようになる。その結果、言語活動を充実することができ思考力・判断力を育み、新たな技能獲得の方法や作戦の発見など、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫するようになっていくと考えた。

### Ⅳ 研究の方法

- 1 研究を進めるに当たって、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するための主体的な学習活動を「学び」と表現する。
- 2 入学年次の次の年次以降の生徒を対象とし、科目「体育」の領域「球技」のゴール型「サッカー」、ネット型「バドミントン」で授業実践する。

サッカー、バドミントンともに、3校で実施する。バドミントンの授業については、2時間連続の授業で実施する。

<授業の実施状況>

サッカー

	生徒人数 (男子・女子)	クラス数	時間数
A高等学校	30 (30・0)	1	10
B高等学校	23 (15・8)	1	10
C高等学校	122 (122・0)	6	10
合計	175 (167・8)	8	30

バドミントン

	生徒人数 (男子・女子)	クラス数	時間数
D高等学校	27 (12・15)	1	16
E高等学校	21 (0・21)	1	16
F高等学校	14 (4・10)	1	16
合計	62 (16・46)	3	48

- 3 「解説」や国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 保健体育）」（以下「参考資料」とする。）の事例等を参考に、評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を作成する。指導と評価の計画では、具体的な言語活動の場面について欄を設ける。

- 4 生徒に対し、単元における学習の見通しと目標をもたせるため、はじめの1時間目に、評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を明示する。それとともに、単元構造図の「学習の流れ」と「評価規準と指導と評価の機会及び評価の方法」について説明する。
- 5 毎回の授業において、生徒が言語活動する場面を意図的に設定する。その際、「学び」が活性化するように、学習カード等の学習資料を活用し、発問、助言、励ましなどの教師の働きかけを適切に行う。
- 6 観察による評価では、生徒一人一人の観点別学習状況を記録するため、活動の見取りをしやすい観察評価補助簿を作成し、実施する。
- 7 把握できた課題、話合いの内容、学習の振り返り等について、学習カードへの記載が、単元を通じてより具体的な記述となっているか比較し、思考力・判断力を育成できたか検証する。
- 8 授業アンケートを作成し、1時間目終了及び単元終了時に実施する。その結果から得られたデータを比較・分析し、思考力・判断力を育成できたか、教師の働きかけが生徒の思考・判断を促したか検証する。

また、生徒に、評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を明示したことが、授業の取り組み方等に与えた影響について、単元終了時にアンケートを行い検証する。

## V 研究の内容

### 1 実践事例 I

科目名	体育	学年	2 学年
-----	----	----	------

#### (1) 単元名

領域「球技」ゴール型「サッカー」

#### (2) 単元の目標

- ・ ゴール型のゲームの特性を理解し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きを高めて、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携したゲームが展開できるようにする。
- ・ サッカーに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする事、合意形成に貢献しようとする事などと健康・安全を確保することができるようにする。
- ・ サッカーにおける技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

#### (3) 単元及び学習活動に即した評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	サッカーに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする事、合意形成に貢献しようとする事、健康・安全を確保することができる。	チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫することができる。	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開することができる。	サッカーにおける技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	① ルールやマナーを大切に、スポーツの価値を高めるとともに自己形成を目指そうとしている。 ② 主体的な学習を成立させるために必要な役割を作り、責任をもって分担しようとしている。また、果たすべき責任が生じた場合、積極的に引き受けようとしている。	① 課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。 ② チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。	① ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶことができる。 ② 味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができる。 ③ 味方が作りだした空間にパスを送ることができる。 ④ シュートを打ったり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。 ⑤ フォーマーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた働きをすることができる。	① それぞれの技術には、技術の向上につながる重要な動きのポイントがあること、また、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントとなること、それらを高めるための安全で合理的な練習の仕方があることを理解している。 ② 目標の設定、目標を達成するための課題の設定、練習法などの選択と実践、学習成果の確認、新たな目標といった過程を理解している。

(4) 指導と評価の計画

時間	学習のねらい・主な学習活動	評価規準				具体的な言語活動の場面
		関心意欲態度	思考判断	運動の技能	知識理解	
はじめ	<p>ねらい① ○前年度までの学習を確認し、評価規準及び単元構造図から学習の進め方と単元の見通しをもつ。</p>					
	1	<p>活動Ⅰ オリエンテーションを通して、学習の進め方を知る。前年度までの学習内容を確認する。 ・単元を通して、自己の果たす役割を作り、主体的な学習を進める。</p> <p>活動Ⅱ ゴールに向かってボールをコントロールするボール操作を身につける。 【ボール操作】ボールコントロールからシュート</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>活動中に、ボール操作やボールをもたないときの動きのポイントについて仲間に指摘する。</li> <li>仲間やチームの技術的な課題について指摘・説明する。</li> </ul>
なか	<p>ねらい② ○課題解決の過程を理解し、チームや自己の取り組みについて目標と成果を検証し、課題を見つけることができる。 ○技術の向上につながるポイントや、練習の仕方を理解した上で、状況に合わせてボール操作をし、味方や相手側コートのねらった場所にボールをつないだり、シュートを打ったりする。</p>					
	2	<p>活動Ⅰ ボール操作とボールをもたないときの動きを身につける。 ・練習を技能に合わせて選択し、仲間やチームで協力し、目標と成果を検証しながら課題解決を図る。 【ボール操作】ボールコントロールからシュート 【ボールをもたないときの動き】・1対2、2対2（カバーの動き）</p>			①	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動中に、ボール操作やボールをもたないときの動きのポイントについて仲間に指摘する。</li> <li>仲間やチームに対して、課題に応じた有効な練習方法について話し合う。</li> </ul>
	3	<p>【ボール操作】味方が作り出した空間へのパス 【ボールをもたないときの動き】空間へ移動する</p>			① ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間やチームの技術的な課題について指摘・説明する。</li> </ul>
	4	<p>活動Ⅱ 自己や仲間・チームの課題を見直し、チームの有効な練習方法を選択し、実践する。 ・今までの練習を振り返り、目標と成果を検証しながら課題解決を図る。</p>			②	
	5	<p>活動Ⅲ チームの役割に応じて、フォーメーションやセットプレイでの動きを身につける。 ・練習を技能に合わせて選択し、仲間やチームで協力し、目標と成果を検証しながら課題解決を図る。 【ボールをもたないときの動き】セットプレイ等</p>		①	③ ④	①
	6	<p>活動Ⅳ 自己及びチームの課題に対する練習と試しのゲームを行う。 ・チームの課題解決を図るための練習を行う。 ・自己の果たす役割を作り、責任をもって果たし、主体的な学習を進める。</p>	②		③ ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間やチームに対して、課題に応じた有効な練習方法について話し合う。</li> <li>仲間やチームの技術的な課題について指摘・説明する。</li> </ul>
	7 8	<p>活動Ⅴ チーム対抗戦を行う。 ・ルールやマナーを大切に、健康安全に留意する。</p>	①		⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>作戦を選ぶ際に、話し合いを通して自分のチーム、相手チームの特徴を分析し、その選択の妥当性を検討したりする。</li> </ul>
まとめ	<p>ねらい③ ○チームの仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法、作戦について指摘できる。 ○自己の果たす役割を作り、責任をもって果たし、主体的な学習を進めていく中で、ゲームを楽しむことができる。</p>					
	9 10	<p>活動Ⅰ チーム対抗戦を行う。 ・これまでのゲームの反省を踏まえ、新たな目標設定をした上で行う。</p> <p>活動Ⅱ 学習のまとめを行う。総括評価を行う。</p>	① ②	②		②

(5) 単元構造図

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学習の流れ	オリエンテーション	共通メニュー（準備運動、今日の学習内容の確認）										
	前年度までの復習	タスクゲーム				グループ別練習						
	簡易ゲーム（課題の明確化）	ボルトレーニング				チーム・個人の目標の設定	チーム対抗戦①		新たな目標の設定	チーム対抗戦②		
		タスクゲーム				ルール・審判法の学習	試しのゲーム					
		共通メニュー（整理運動、振り返り、次回課題等）										
評価規準と指導と評価の機会及び評価の方法	運動の技能	①	①観察									
	関心・意欲・態度	②					②観察			①観察	②観察	
	知識・理解		①			①ノート		②			②ノート	
	思考・判断		①			①ノート		②		②観察	②ノート	

※表の見方：白地黒文字は指導の機会を示している。

黒地白抜き文字は、同番号の各評価規準に基づき評価する方法・機会を示している。

(6) 本時の展開 (全 10 時間中の 9 時間目)

ア 本時の目標

- (ア) ルールやマナーを大切にし、スポーツの価値を高めるとともに自己形成を目指そうとしている。
- (イ) 課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。
- (ウ) チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。

イ 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列、挨拶、出欠確認及び健康状態の確認。</li> <li>・本時のねらいや学習内容を理解する。</li> <li>・グループごとに準備運動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・これまでの学習を振り返りながら、本時のねらいを伝える。</li> <li>・グループリーダーの指示のもとに行うよう指示する。</li> </ul>	
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボール慣れ</li> <li>・スクウェアパス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール慣れを行い、基本的な動きを確認できるようにする。</li> </ul>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>言語活動場面</p> <p>1、今までの学習を振り返り練習内容や新たな目標について話し合い、記録を取る。(要約・記録)</p> <p>2、1を受けて練習を行いながら、説明・指摘している。(要約・説明)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新たな目標設定・グループ練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習を振り返りながら新たな目標や練習の内容を話し合い、練習を行うように伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>努力を要する生徒への手立て</b></p> <p>【言語活動場面】</p> <p>・今までの課題のポイントを明確にすることで練習内容や練習の仕方について指摘しやすくする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ②チームや仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。(観察)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>努力を要する生徒への手立て</b></p> <p>・一人一人の技能を十分に生かすことができるポジショニングやフォーメーションをチーム全体で考えることができるようにする。</p> </div>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲーム</li> <li>○学習カードにまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな目標を意識し合いながらゲームを行うように伝える。</li> <li>・今までの学習を振り返り成果や次回の課題について具体的に学習カードにまとめるように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア①ルールやマナーを大切にし、スポーツの価値を高めるとともに自己形成を目指そうとしている。(観察)</li> </ul>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>言語活動場面</p> <p>1、ゲームを行ってみて、本時の成果・次回の課題について説明・書き留めている。(要約・記録)</p> </div>		
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理運動を行う。</li> <li>・本時のねらいを踏まえながら、自分の活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員の指示のもと行うように指示する。</li> <li>・本時のねらいを振り返り、生徒の意見を聞きながらまとめをする。</li> <li>・次回の課題などを説明する。</li> </ul>	



(8) 観察評価補助簿

観察評価補助簿について、設定した評価規準の状況を実現していれば「おおむね満足できる」とし、実現していなければ「努力を要する」状況とした。さらに「おおむね満足できる」状況と判断される生徒の学習状況について、質的な高まりをもっていると判断されるとき「十分満足できる」状況という評価とした。

授業において、設定した「十分満足できる」状況と判断されるものについてはAに印をつけ、「努力を要する」状況と判断されるものについてはCに印をつける。その際、特記すべき内容があったときには、備考欄に記入するようにした。「おおむね満足できる」状況と判断されるものについては、授業後Bに印をつけることで、生徒に対する指導の時間を確保するようにした。

観察評価補助簿

年 組		評価規準	関心・意欲・態度 ②	主体的な学習を成立させるために必要な役割を作り、責任をもって分担しようとしている。また、果たすべき責任が生じた場合、積極的に引き受けようとしている。	評価規準	思考・判断 ②	チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。
番号	氏名	評価		備考	評価		備考
1	〇〇 〇〇	A・B・C			A・B・C		
2	〇〇 〇〇	A・B・C			A・B・C		
3	〇〇 〇〇	A・B・C			A・B・C		
4	〇〇 〇〇	A・B・C			A・B・C		
~~~~~							
39	〇〇 〇〇	A・B・C			A・B・C		
40	〇〇 〇〇	A・B・C			A・B・C		

## 2 実践事例Ⅱ

科目名	体育	学年	2 学年
-----	----	----	------

### (1) 単元名

領域「球技」 ネット型「バドミントン」

### (2) 単元の目標

- ・ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
- ・ バドミントンへ主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。
- ・ バドミントンにおける技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

### (3) 単元及び学習活動に即した評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	バドミントンの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたってバドミントンを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	バドミントンの特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	バドミントンにおける技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	① バドミントンの学習に主体的に取り組もうとしている。 ② フェアなプレイを大切にしようとしている。 ③ 仲間の課題解決に向け、話し合いに貢献し教え合おうとしている。	① 自己や仲間の課題を見付けている。 ② 自己や相手の特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ③ 仲間に対して技術的な課題や有効な練習方法を指摘している。	① シャトルを相手側のコートに空いている空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。 ② ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、効果的なフォーメーションの動きをすることができる。	① 課題解決の方法について理解したことを言ったり書き出したりしている。 ② 試合の運営の仕方について、具体例を挙げている。

(4) 指導と評価の計画

時間	学習のねらい・主な学習活動	評価規準				具体的な言語活動の場面
		関心意欲態度	思考判断	運動の技能	知識理解	
はじめ	<p>ねらい① ○前年度までの学習を確認し、単元の見直しをもつ。</p> <p>活動Ⅰ オリエンテーションを通して、学習の進め方を知る。前年度までの学習内容を確認する。</p> <p>活動Ⅱ 前年度までの基本的技能の復習をする。 ・ハイクリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ、サービスなど</p>		①			<p>・文章で書かれたシャトルとラケット操作から、自己の課題について書き留める。</p>
	<p>ねらい② ○シングルスでシャトルを相手側のコートの空いている空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。</p> <p>活動Ⅰ ・コート、ショットの制限をつけてタスクゲームを行い、自己や仲間の課題を見つける。  ・自己や仲間の課題を踏まえた上での練習を行なう。</p> <p>活動Ⅱ グループ練習 ・相手側のコートの空いている空間に緩急や高低をつけて打ち返すポイントを理解し、互いに助け合い、教え合い学習に取り組む。  グループ対抗シングルスゲーム</p>		①	①	①	<p>・うまくいくためのポイントについて書き留める。  ・活動中に、仲間やチームの技術的な課題について指摘する。話し合いにおいて、課題を説明し、練習方法を検討する。</p> <p>・うまくいくためのポイントについて書き留める。  ・ラリー中に、動きのポイントについて、仲間に指摘する。  ・活動中に、仲間やチームの技術的な課題について指摘する。話し合いにおいて、作戦を検討する。</p>
なか	<p>ねらい③ ○ダブルスでラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、効果的なフォーメーションの動きをすることができる。</p> <p>活動Ⅰ ・コート、ショットの制限をつけてタスクゲームを行い、自己や仲間の課題を見つける。 ・自己や仲間の課題を踏まえた上での練習を行なう。</p>		②	②		<p>・タスクゲームで自己やペアの課題を見つけ、指摘する。  ・適切なフォーメーションを選択する。</p>
まとめ	<p>ねらい④ ○空いた場所をめぐる攻防を中心に自己のチームや相手のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を立てて、ゲームを楽しむ。 ○試合の行い方、ルール、審判や運営の仕方を理解する。</p> <p>活動Ⅰ グループ練習  グループ対抗ダブルスゲーム</p>		③	②	②	<p>・仲間に対して、課題に応じた有効な練習方法について、説明する。  ・作戦を選ぶ際に、話し合いを通して自分のチーム、相手チームの特徴を分析し、その選択の妥当性を検討したり、書き留める。</p>

(5) 単元構造図

		1, 2	3, 4	5, 6	7, 8	9, 10	11, 12	13, 14	15, 16
学習の流れ	オリエンテーション	共通メニュー（準備運動、今日の学習内容の確認）							
		基礎的技能練習：各種ショット練習・ドリルゲーム							
	前年度までの復習	タスクゲーム：シングルス	グループ練習	タスクゲーム：ダブルス	グループ練習				
	簡易ゲーム	グループ練習 タスクゲームでの自身の課題を踏まえた上での各種練習		グループ対抗 シングルス ゲーム	グループ練習 タスクゲームでの自身の課題を踏まえた上での各種練習		グループ対抗 ダブルスゲーム		
		タスクゲーム シングルス	ルール説明 試しのゲーム		タスクゲーム ダブルス	ルール説明 試しのゲーム			
	共通メニュー（整理運動、振り返り、ゲーム評価、次回課題等）								
評価規準と指導と評価の機会及び評価の方法	運動の技能		① 観察			② 観察			
	関心・意欲・態度	① 観察			② 観察		③ 観察		
	知識・理解		① 学習カード		② 観察			② 観察	
	思考・判断		① 学習カード		② 学習カード				③ 観察

※表の見方：白地黒文字は指導の機会を示している。

黒地白抜き文字は、同番号の各評価規準に基づき評価する方法・機会を示している。

(6) 本時の展開 (全 16 時間中の 9、10 時間目)

ア 本時の目標

- (ア) 自己やペアの課題について互いに協力してアドバイスし合おうとしている。
- (イ) ペアの課題を踏まえて、作戦やフォーメーションなどの戦術を選んでいる。
- (ウ) ラリーの中で効果的なフォーメーションを考えながら出来るようにする。

イ 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列、挨拶、出欠確認及び健康状態の確認。</li> <li>・本時のねらいや学習内容を理解する。</li> <li>・準備運動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・これまでの学習を振り返りながら、本時の目標を確認する。</li> <li>・準備運動を行う。</li> </ul>	
展開	70分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的技能練習</li> <li>・ハイクリア、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン、ドライブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なショットの練習を行い、ゲームで使えるように技能の定着を図る。</li> </ul>	
		<p>言語活動場面</p> <p>1、今までの学習を振り返り練習内容や新たな目標について話し合い、記録を取る。(要約・記録)</p> <p>2、1を受けて練習を行いながら、説明・指摘している。(要約・説明)</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○タスクゲーム (3対2、トップアンドバック対サイドバイサイド)</li> <li>○新たな目標設定・グループ練習 (学習カードに記録をする。)</li> <li>○ゲーム</li> <li>○学習カードにまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで効果的な作戦や、フォーメーションについて話しながら行うように指導する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>努力を要する生徒への手立て</b></p> <p><b>【言語活動場面】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タスクゲームでの課題を明確にさせて練習内容や練習の仕方について考えさせるようにする。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習を振り返りながら新たな目標や練習の内容を話し合い、練習を行うように伝える。</li> <li>・新たな目標を意識し合いながらゲームを行うように伝える。</li> <li>・今までの学習を振り返り成果や次回の課題について具体的に学習カードにまとめるように伝える。</li> </ul>	<p><b>努力を要する生徒への手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の技能を十分に生かすことができるポジショニングやフォーメーションをペアで考えることができるようにする。</li> </ul> <p>イ②自己や相手の特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。</p> <p>ウ②ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、効果的なフォーメーションの動きをすることができる。(観察)</p>
		<p>言語活動場面</p> <p>1、ゲームを行ってみて、本時の成果・次回の課題について説明・書き留めている。(要約・記録)</p>		
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理運動を行う。</li> <li>・本時のねらいを踏まえながら、自分の活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいを振り返り、生徒の意見を聞きながらまとめをする。</li> <li>・次回の課題などを説明する。</li> </ul>	

## (7) 学習カード

3、4時間目ではシングルスでシャトルを相手のコートに空いている空間に緩急や高低をつけて打ち返す攻撃を学習できるようにしている。9、10時間目ではこれまで学んできたことを活用してダブルスのフォーメーションを学習できるようにしている。

### バドミントン学習カード（3、4時間目）

### バドミントン学習カード（9、10時間目）

3、4時間目	11月 1日(木)																		
<p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>狙ったところに打つことができる</li> <li>課題解決の練習をすることができる</li> </ul>																			
<p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ストローク練習</li> <li>タスクゲーム</li> <li>グループ練習</li> <li>タスクゲーム</li> </ul>																			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>タスクゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コート半面</li> <li>○11点先取、デュースなし</li> <li>○斜線の箇所は3点</li> </ul>  </div>																			
<p><b>振り返り</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div> <p style="font-size: small;">ゲームを振り返ってみよう！</p>																			
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>自分で評価</b></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">できた</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">できない</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> </tr> </table>		<b>自分で評価</b>		できた		できない		・	4	3	2	1		・	4	3	2	1	
<b>自分で評価</b>		できた		できない															
・	4	3	2	1															
・	4	3	2	1															
<p>今日の授業で、できたことやできなかったことを書いてみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div>																			

9、10時間目	11月 15日(木)																		
<p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダブルスの動き方ができる。</li> <li>パートナーに対してアドバイスすることができる。</li> </ul>																			
<p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダブルスのフォーメーションについて知る。</li> <li>タスクゲーム</li> </ul>																			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>フォーメーション</p> <p>トップ・アンド・バック</p> <p>前衛と後衛の位置で、帯える。攻撃的布陣。</p> <p>サイド・バイ・サイド</p> <p>2人が横の位置で構える。守備的布陣。</p> </div>																			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>タスクゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各フォーメーションで試合</li> <li>○11点先取、デュースなし</li> </ul> </div>																			
<p><b>振り返り</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div> <p style="font-size: small;">ゲームを振り返ってみよう！</p>																			
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>自分で評価</b></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">できた</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">できない</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> </tr> </table>		<b>自分で評価</b>		できた		できない		・	4	3	2	1		・	4	3	2	1	
<b>自分で評価</b>		できた		できない															
・	4	3	2	1															
・	4	3	2	1															
<p>今日の授業で、<u>できたこと</u>や<u>できなかったこと</u>を書いてみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div>																			

### 3 1時間目終了時及び単元終了時の授業アンケートの比較による分析・考察

本研究では、領域「球技」ゴール型の「サッカー」を3校（生徒数175人）、ネット型の「バドミントン」を3校（生徒数62人）、計6校（全生徒数237人）で授業を実施した。1時間目開始時（以下「事前」とする。）と単元終了時（以下「事後」とする。）に同じ授業アンケートを実施した。

アンケートのQ1、Q2は、体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断を、Q3は体力や健康・安全に関する思考、判断を、Q4、Q5は運動実践につながる態度に関する思考、判断を、Q6は生涯スポーツの設計に関する思考、判断を、Q7は教師の働きかけの有効性を、Q8はQ7の具体例を、Q9、Q10、Q11は、学習カードの有効性を、Q12はQ11の具体例を調査する設問となっており、Q13で生徒が感じたことを自由に記入できる自由記述欄を設けた。アンケートの結果を比較し、分析・考察を進める。

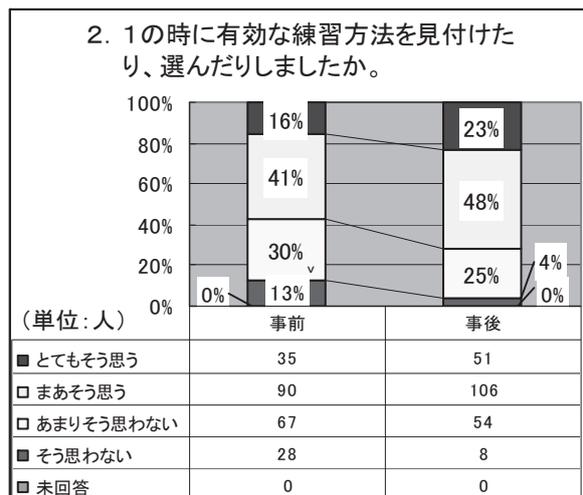
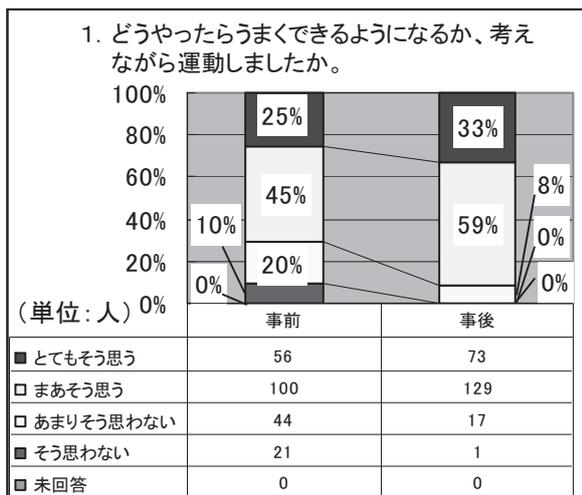
#### 授業アンケート

	アンケート項目	とても そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
Q1	どうやったらうまくできるようになるか、考えながら運動しましたか。				
Q2	1のときに有効な練習方法を見付けたり、選んだりしましたか。				
Q3	体調やその場の状況（施設・用具等）に配慮しながら運動しましたか。				
Q4	仲間の良い点や改善点を伝えることができましたか。				
Q5	話し合いの場面で、お互いが納得する結果を導き出すための関わり方を見付けられましたか。				
Q6	その種目を継続して楽しむための関わり方を見付けられましたか。				
Q7	教師のアドバイスから運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか。				
Q8	Q7で発見したことの具体例を挙げてください。				
Q9	学習カードを活用して、運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか。				
Q10	学習カードを活用して、アドバイスをすることができましたか。				
Q11	学習カードを活用して、アドバイスの内容が変わりましたか。				
Q12	Q11の内容について変わったことの具体例を挙げてください。				
Q13	自由記述				

(1) 体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断

Q1 「どうやったらうまくできるよくなるか、考えながら運動しましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が70%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が92%となった。

Q2 「1のときに有効な練習方法を見付けたり、選んだりしましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が57%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が71%となった。

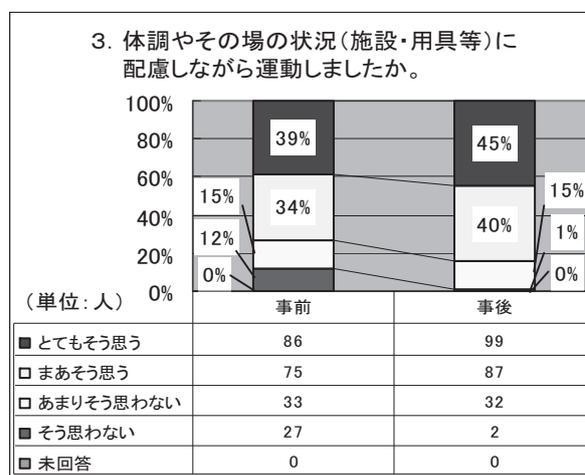


事後アンケートにおいて、Q1で約9割の生徒が「考えながら運動した。」と回答し、Q2で約7割の生徒が「有効な練習方法を見付けたり選んだりした。」と回答しており、思考・判断を行いながら運動をしたと言える。事後アンケートの自由記述欄にも、「自分たちの足りないところを練習できるから役に立つ時間になった。」「しぼって練習することが多くなったので、少しはうまくなれたと思う。」という感想が書かれているものがあり、体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断がされていたと推察できる。

(2) 体力や健康・安全に関する思考・判断

Q3 「体調やその場の状況(施設・用具)に配慮しながら運動しましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が73%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が85%となった。

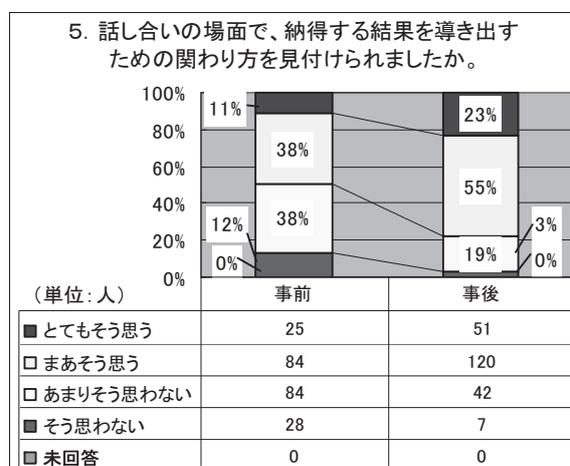
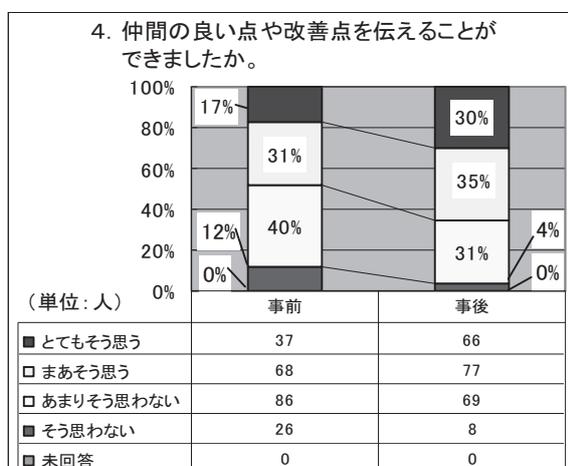
Q3の事後アンケートでは、8割以上の生徒が体調やその場の状況に配慮して運動をしたと感じている。授業中の様子からも、使用している用具について安全に運動できるように場所を移動したり、適切に設置したりするなど、安全の確保を考えて取り組む生徒の様子が見られ、体力や健康・安全に関する思考・判断がされたと推察できる。



(3) 運動実践につながる態度に関する思考・判断

Q 4 「仲間の良い点や改善点を伝えることができましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が 48%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が 65%となった。

Q 5 「話し合いの場面で、お互いが納得する結果を導き出すための関わり方を見付けられましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が 49%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が 78%となった。

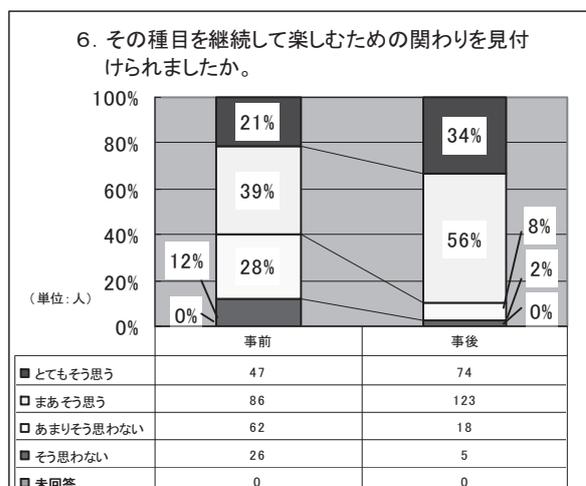


Q 4、5ともに事後アンケートにおいて、約7割の生徒が仲間の良い点や改善点を伝え、話し合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けられたと感じている。授業中の様子からも、積極的な教え合いや話し合いがあり、運動実践につながる態度に関する思考・判断がされたと推察できる。

(4) 生涯スポーツの設計に関する思考・判断

Q 6 「その種目を継続して楽しむための関わり方を見付けられましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が 60%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が 90%となった。

Q 6の事後アンケートにおいて、9割の生徒が継続して楽しむための関わり方を見付けることができたと言える。事後アンケートの自由記述欄にも、「もっとくなりたい。」、「また次回良く考えてさらにステップアップしたい。」など満足感や達成感が感じられた意見もあり、生涯スポーツの設計に関する思考・判断がされたと推察できる。



(5) 習得した知識・技能を活用する活動での教師の働きかけの有効性

Q7「教師のアドバイスから運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が60%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が79%となった。

Q7の事後アンケートにおいて、8割近くの生徒が教師の働きかけによって、習得した知識・技能を活用する活動が活性化されたと感じている。

Q8「質問7で発見したことの具体例を挙げてください。」について、「練習の仕方の詳しいアドバイスがよかった。」や「話し合いで自分の意見を述べることの大切さが分かった。」という記述があり、教師の働きかけが有効に活用されたと推察できる。

(6) 習得した知識・技能を活用する活動での学習カードの有効性

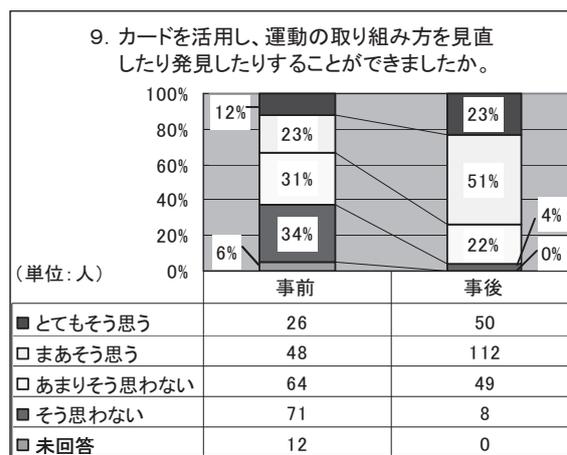
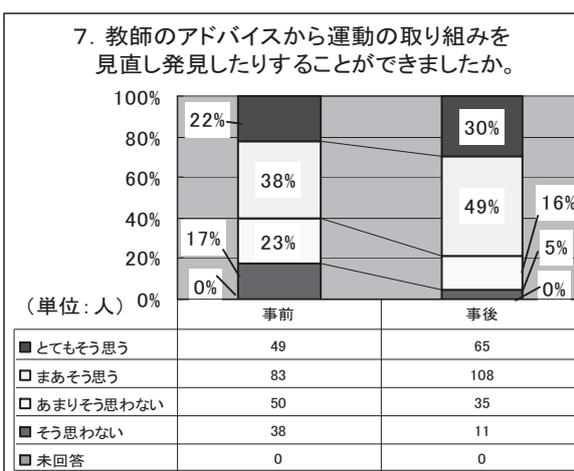
Q9「学習カードを活用して、運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が35%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が74%となった。

Q9の事後アンケートにおいて、7割以上の生徒が学習カードを活用して、運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができたと感じている。授業の様子からも、学習カードに記載した内容やアドバイスされた内容を見直して、学習課題の把握と振り返りをするなど、学習カードが有効に活用されたと推察できる。

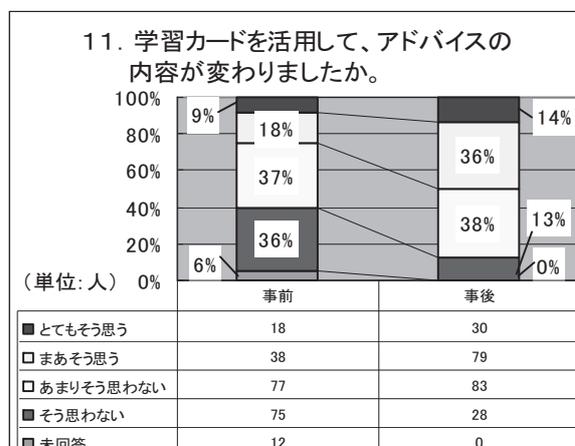
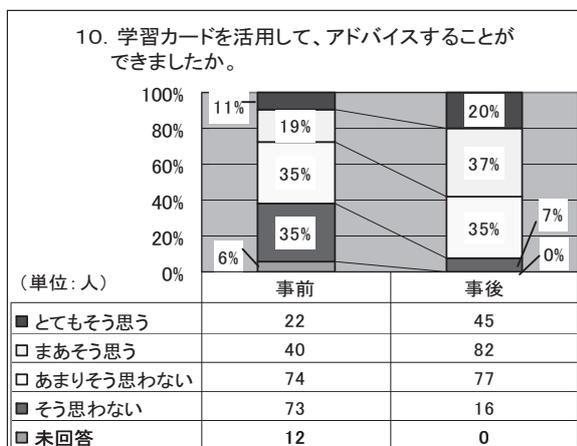
(7) 学習カードの活用による言語活動の充実

Q10「学習カードを活用して、アドバイスをすることができましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあそう思う」が30%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が57%となった。

Q11「学習カードを活用して、アドバイスの内容が変わりましたか。」について、事前アンケートにおいて「とてもそう思う」「まあ



「そう思う」が 27%であったが、事後アンケートでは「とてもそう思う」「まあそう思う」が 50%となった。「そう思わない」については、36%から 13%に減少した。



Q10において、6割近くの生徒が学習カードを活用して、教え合いや学び合いの活動を行えたと感じている。授業の様子からも、学習カードの技能チェックシートを活用して、アドバイスをしている生徒の様子が見られた。

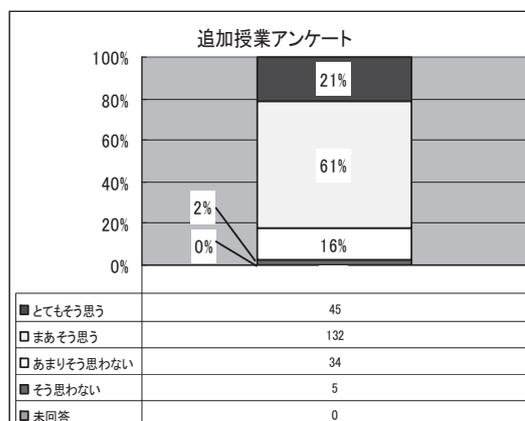
Q11において、5割近くの生徒が、学習カードを活用した言語活動の内容に改善が見られたと感じ、「そう思わない」とした否定的な意見が減少している。

Q12「Q11の内容について変わったこと具体例を挙げてください。」について、「自分たちでは、気づくことができなかつたことが分かつた。」や「周りを冷静に見ることができるようになった。」という記述があり、アドバイスの内容が変わっていったことに学習カードが有効に活用されたと推察される。

#### (8) 評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図の明示

評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を生徒に明示したことについて聞き取る授業アンケートを行った。質問1は、評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を示されていた過去の授業と、今回の授業に対する取り組み方の変容について、Q2は、Q1を受けて具体的に授業に参加する前と単元終了時の変容について検討した。

Q1「この授業では、最初に授業の計画に加えて『いつ』『何を』『どのような方法で』評価されるのかを示しました。そのことによってあなたの取り組みは良くなったと思いますか。」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が 82%となった。約8割の生徒が事前に示されることによって、運動に取り組みやすく感じていることと思われる。



Q2の具体例の記述欄にも「ただゲームをするのではなく、目標が具体的に示されていたので、取り組みやすかつた。ペアの人のために頑張れた。」という記述があり、評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を示されて授業の取り組み方がより良く変容したということが見て取れた。

## VI 研究の成果

### 1 指導と評価の工夫

#### (1) 学習カードの工夫

学習カードの作成に当たっては、運動のポイントを理解しやすいように作成するとともに、把握できた課題、話合いの内容、学習の振り返り等について短時間で記入できるようにした。

また、単元を進めていく中で段階的に課題を設定することで、学習カードを活用し、言語活動を更に充実させることができた。

その結果、話合いの内容が明確になることで学習の勢いを損なうことがなく、生徒は、自己や仲間、チームの課題や課題解決の方法について、視覚的なイメージを言語で捉え、言葉や文章、身体等で表現するようになった。また、活動中の言語活動も充実していたことから、一層「学び」を活性化させることができた。

#### (2) 教師の働きかけ

教師の働きかけには、発問、助言、励まし、承認などがあるが、特に、生徒の思考力・判断力を高めるよう、生徒の活動に対して即時に声かけを行う工夫をした。

具体的には、教師の発問により、生徒が何を考え、どのように取り組んでみたか意見を引き出し、その内容を説明するようになった。それを基に、それぞれのペアやグループで考え、考えた内容を試させることを繰り返した。

また、グループでの活動が停滞したときには、それまでに学習した技能や知識を具体的に活用するヒントを生徒に気付かせるよう与えた。

加えて、学習カードの記述内容に対しては、コメントを記入し、次の時間に振り返りやすいように具体的に文章でフィードバックした。

その結果、生徒は、仲間と共に、話合いで共通の目標や練習方法を理解し、実際に体を動かしつつ、仲間の課題を指摘することができるようになっていった。

また、教師の発問や即時の声かけは、生徒が思考・判断する学習を促すだけでなく、運動への関心・意欲・態度の向上にもつながっていった。

#### (3) 評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図の作成と明示

生徒の既習状況を踏まえながら、「解説」、「参考資料」を参考に、評価規準、指導と評価の計画及び単元構造図を作成し、単元の始めの授業において生徒に示して説明することで、学習の見通しと目標をもたせるようにした。

その結果、生徒は、単元を通した目標と本時の学習内容の位置付けを把握することができ、課題解決に向けて意欲的に取り組むようになった。

授業者としても、指導内容及び評価方法・機会について視覚的に捉えることができ、学習の流れを損なわずに計画的に進めることが行えるようになった。指導と評価を一体化させた学習指導が展開できるようにしたことで、より効果的・効率的な指導と評価につながった。

#### (4) 観察評価補助簿の活用

「関心・意欲・態度」などの4観点の観察において、観察評価補助簿を活用したことによって、生徒一人一人の観点別学習状況を簡潔に記録することができた。このため、観点別学習状況の観点ごとの総括において、その記録を活用して総合的評価を補完し、各観点についてバランス良く評価することができた。

## VII 今後の課題

### 1 指導と評価の工夫

#### (1) 言語活動の充実

意図的に言語活動の場面を設定したことで、単元が進むにしたがい、話合いや実際の動きの中で積極的な言語活動が多く見られた。活動時間を確保しながら言語活動の充実を一層図っていくためには、各校の生徒の実態や施設・設備等の状況、授業時間数などを踏まえた設定内容の改善が必要である。

#### (2) 教師の働きかけ

学習カードの自由記述の内容から、教師の働きかけによって、生徒の思考力・判断力の向上を読み取れるが、より一層課題解決に向けて主体的に工夫して取り組めるようにするために、学習カード等からポイントを絞った端的なキーワードを例示するなどの工夫が必要である。

#### (3) 学習カード

単元目標の達成にねらいを置き、言語活動を充実させる上で学習カードは有効であった。今後は、指導と評価の一体化を充実させるため、生徒の実態に応じた学習カードの内容の工夫と改善が必要である。

また、活動時間を確保するため、生徒がより簡素に書くことができつつ、生徒の変容を見取れる学習カード作成の改善を進めていくことが必要である。

#### (4) 観察評価補助簿の工夫

評価の記録を的確に残しつつ、教師からの働きかけをより充実させるために、今後、観察評価補助簿の内容を精選し工夫する必要がある。

### 2 生徒の思考力・判断力の更なる育成

本研究では、一つの単元での授業実践において、生徒の思考力・判断力の育成について一定の成果は得られた。さらに育成していくためには、高等学校3か年又は4か年の全ての単元を通して取組を行う必要がある。

また、生徒の既習状況や経験について、教師間で共有しやすいよう、生徒一人一人について入学時から卒業まで継続して学習指導状況を把握できる工夫が必要である。

## 平成24年度 教育研究員名簿

### 高等学校・保健体育

学 校 名	課 程	職 名	氏 名
都 立 一 橋 高 等 学 校	定 時 制	教 諭	小 林 亜 津 志
都 立 六 本 木 高 等 学 校	定 時 制	主 任 教 諭	武 市 可 奈 子
都 立 東 高 等 学 校	全 日 制	主 任 教 諭	◎小 池 秀 朋
都 立 町 田 工 業 高 等 学 校	全 日 制	主 任 教 諭	田 北 和 暁
都 立 東 久 留 米 総 合 高 等 学 校	定 時 制	教 諭	田 丸 麻 子
都 立 五 日 市 高 等 学 校	定 時 制	主 任 教 諭	高 田 敏 之

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 小宮 徳健  
東京都教育庁指導部指導企画課 指 導 主 事 石田 和仁

平成24年度  
教育研究員研究報告書

高等学校・保健体育

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕  
平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6882  
印刷会社 株式会社 イマイシ